

(一社) 日本木材学会 2018 年度木質物性研究会
秋のシンポジウム 開催予告
(9月10日(月)～11日(火)) 旬菜の宿ホテル季古里)

シンポジウムテーマ 「木との対話」－匠の技『曲げ木』100年の歴史と現在・未来－

先代の匠たちは長年培われた経験や勘に基づき、水分と熱を上手く利用して木材を柔らかく加工しやすい状態へと制御し、専用の金型を用いて絶妙な力加減や速度で木材を曲げ、その形状を保ったまま乾燥するという工程を経て曲げ木を行ってきました。熟練した職人が減少する中、この技を未来に引き継ぐためにも、職人の感覚を科学的に表現し再現できる技術の開発が曲げ木の現場から求められています。さらに現場では、不良品が一定の割合で生じるがその原因がわからないという深刻な状況が続いています。近年は曲げ木製品が広く普及しており、『曲げ木』は既に完成された技術と思われがちですが、解明できていないことがまだ多くあります。

今回は、曲げ木の現場の技術者、現場での課題解決に取り組んできた研究者に、曲げ木の歴史から開発・研究の経緯、現在直面している課題を紹介して頂きます。また、木材の基礎研究に取り組む研究者からは、曲げ木加工の工程で重要となる木材の性質や加工方法について話題を提供して頂きます。最後は、異なる年代・立場から、『曲げ木』が抱える課題の解決に向けてパネルディスカッションを行います。

1日目の夜は郷土料理を味わい、温泉でのんびりしたあとは、恒例の「若手研究者による研究発表会」も行います。2日目には家具メーカーの工場見学を予定しております。木製家具の産地、飛騨高山で『木材と人』の歴史に思いを馳せながら、これからの木材科学が切り拓く未来をみんなで考えていきましょう。皆様の多数のご参加をお待ち申し上げます。

講師 (所属と演題)

第1日目 (9月10日月曜日 13:00開場)

田中重盛氏 (岐阜県工芸試験場元場長) 「曲げ木の変遷と二・三次曲面曲げへの展開」

曲げ木技術の変遷を解説するとともに、これまでに取り組んできた二・三次元曲げ加工技術を紹介する。

大川伸吾氏 (飛騨産業株式会社) 「飛騨産業の曲げ木～歴史と最近の悩み～」

飛騨産業の曲げ木の歴史を紹介し、大量生産だったころの曲げ木と、近年の多品種少量生産に対応した曲げ木の違いと悩みについてお話する。

石原智佳氏 (岐阜県生活技術研究所) 「曲げ木の最適条件を探る」

飛騨の地場産業を支援する公設試での曲げ木の改善に向けた取り組みを紹介する。

三好由華氏 (森林総研) 「木材の変形に関わる物性の基礎」

曲げ加工をはじめ木材の変形を考えるうえで重要となる物性の基礎について概説する。

三木恒久氏 (産総研) 「金属材料の塑性加工からみる木材の曲げ加工」

金属材料の塑性加工の一つである曲げ加工を紹介しながら、木材の塑性や曲げ加工を考察することで、それらの差異、類似性および問題点を検討したい。

パネルディスカッション（司会 京都府立大学 古田裕三氏）

第2日目（9月11日火曜日 12:00 終了後市街まで送迎）

工場見学（飛騨産業株式会社 岐阜県高山市漆垣内町 3181）

主催：（一社）日本木材学会 木質物性研究会

協賛：（公社）日本木材加工技術協会，産総研コンソーシアム持続性木質資源工業技術研究会

日時・場所

2018年9月10日（月）13:00～ 9月11日（火）（12:00頃終了）

旬菜の宿ホテル季古里（岐阜県飛騨市古川町）（全館貸切）送迎バスあり

参加費：一般（5,000円），学生（3,000円），宿泊費（一泊朝食・懇親会込み）14,000円

お申し込み方法は，近々木質物性研究会HPにアップします。

（www.jwrs.org/kenkyu/physical_p/）

今回は，施設の都合上，参加者上限60名です。お早いお申し込みをお待ち申し上げます。

連絡先（事務局）：名古屋大学生命農学研究科 山本浩之 (hiro@agr.nagoya-u.ac.jp)